©2022 YHAL, YITP, Kyoto University
京都大学基礎物理学研究所　湯川記念館史料室

第3種郵便物認可

パグウォッシュ会議に日程などを説明する右から小川、豊田、朝永、小沼の各氏（27日午後、京都市内のホルで）

パグウォッシュ会議

核兵器廃絶めざす悲願

1975.8.28 朝日

完全核軍縮を追究

17カ国・36の頭脳集めて

「完全核軍縮への新しい構想――科学者および技術者の社会的機能」をメーンテーマに、第二十五回パグウォッシュ・シンポジウム（主催・パグウォッシュ協議会＝ロンドン、後援・財団法人湯川記念財団）が二十八日から五日間、京都市左京区の国立京都国際会館で開かれる。十八年前、米ソの核軍争から人類滅亡の危機を避けるため、各国の科学者が個人参加して第一回の会議がカナダのパグウォッシュ村で開かれ、日本には核爆三十周年目にやっと開催の番が回ってきた。

組織委員会（事務局長・豊田利幸名古屋大教授）が二十七日明らかにした参加者数は十七カ国計三十六人。会議の趣旨から政府や団体の派遣ではなく、個人資格による参加。二十八日午前九時半からの開会式では、ロンドンの本部を代表して、ロートブラット・ロンドン大教授や日本側は組織委員の湯川秀樹京大名誉教授らがあいさつを述べる。このあと、すぐにシンポジウムに移り、九月一日夕までの毎日午前と午後あわせてほぼ六時間にわたって討論を続ける。その主なるテーマは①大量破壊兵器と倫理原則②核エネルギー、テクノロジー、平和目的の核爆発などの問題③核軍縮への第一歩④完全核軍縮への諸段階と日程――の四つとなっている。最終日の一日午後にはシンポジウムをまとめたコミュニケが発表される予定。

また記念の「全面核軍縮をめざして」のテーマをかかげた公開講演会が九月二日に京都で、三日には東京で開かれる。

京都では二日午後六時から下京区の山一ホールで朝永振一郎東京教育大名誉教授が「第二十五回パグウォッシュ・シンポジウム日本開催をめぐって」、ロートブラット・ロンドン大教授が「ラッセル・アインシュタイン宣言の今日的意義」、カナダのエプシュタイン教授が「核危機を打開するには」をそれぞれ講演。東京は三日午後五時半から千代田公会堂で朝永氏の講演のほか、デンマークのモーレ・コペンハーゲン大教授や核軍縮等の「内部告発者」として知られるハーバード・ヨーク・カリフォルニア大教授らの講演がある。京都、東京とも入場無料。

シンポジウム参加者次の通り。（敬称略。海外はアルファベット順、国内は五十音順）

【海外】ブラウ（社会学）＝オーストリア▽ダビドン（物理学）＝アメリカ▽エメリアノフ（物理学）＝ソ連▽エプシュタイン（軍縮）＝カナダ▽フォーク（政治学）＝アメリカ▽ガラール（数理学）＝エジプト▽ヤノフ（物理学）＝スウェーデン▽カムスコム＝カメルーン▽クレーガー（国際法）＝東ドイツ▽クレショフ＝ソ連▽モーレ（分子生物学）＝デンマーク▽マホーズ＝エジプト▽マルコフ（物理学）＝ソ連▽モック（軍縮）＝フランス▽オコイエ（物理学）＝ナイジェリア▽オルセン（物理学）＝ノルウェー▽パブリチェンコ（軍備管理）＝ソ連▽ラシエンス（政治学）＝アメリカ▽ロートブラット（物理学）＝イギリス▽ゼンハース（政治学）＝西ドイツ▽スブラマニアム（安全保障）＝インド▽トルホク（物理学）＝オランダ▽ヨーク（物理学）＝アメリカ▽カプラン（微生物学）＝世界保健機関▽ツィビス（物理学）＝ストックホルム国際平和問題研究所

【国内】飯島宗一広島大学長▽小川岩雄立教大教授▽坂本義和東大教授▽関寛治東大教授▽朝永振一郎東京教育大名誉教授▽豊田利幸名大教授▽西川哲治大助教授▽野上茂吉郎法政大教授▽山田英二金沢大教授▽湯川秀樹京大名誉教授▽渡辺慧阪大教授

c092-17-035